

第45号 通巻9号第4号

1989年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ 0775-85-4397

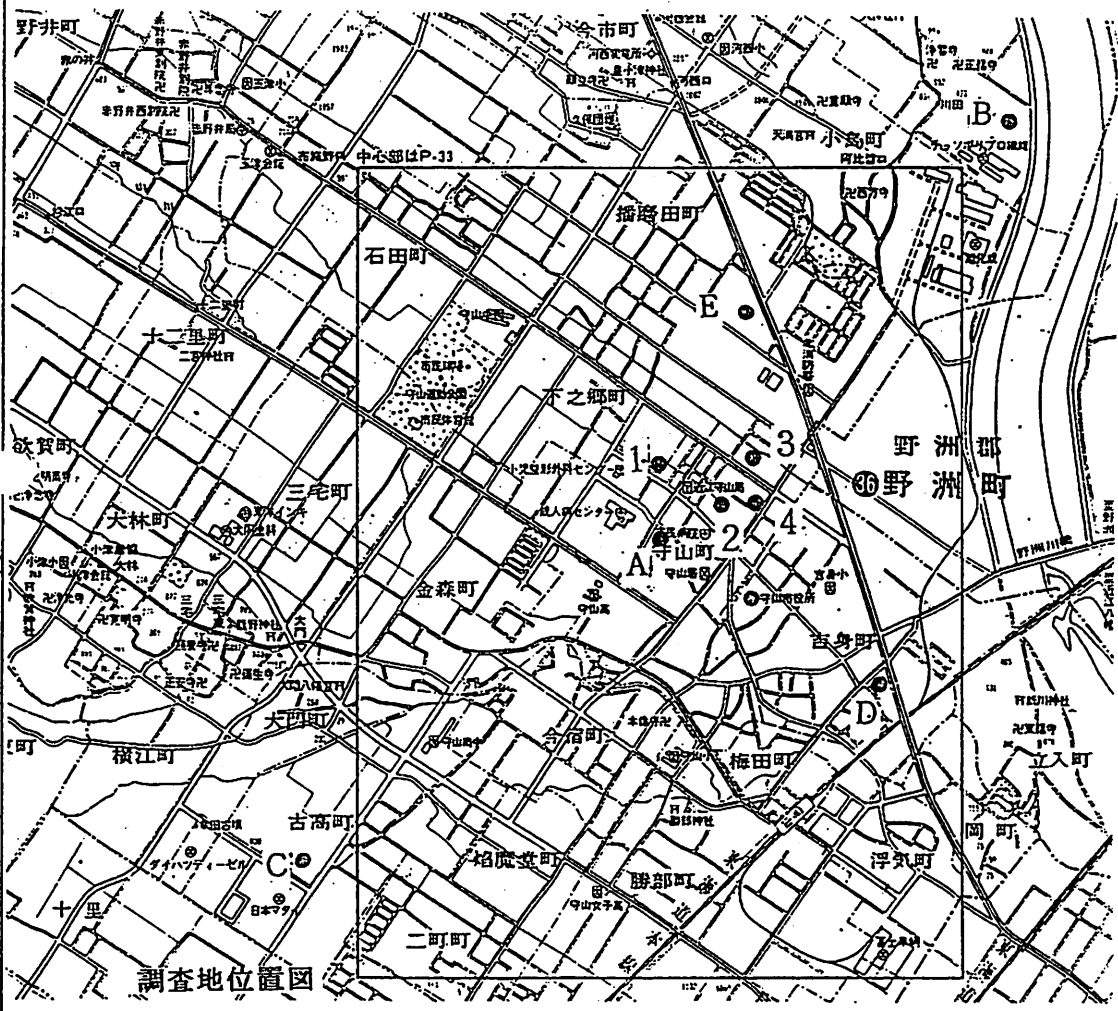
〒 524-02

守山市服部町2250番地

☆ はじめに ☆

梅雨ももう後半に入ろうという頃になり、毎日じっとりと汗ばむむし暑い日が続いています。天候も曇りがちで、気分のほうもうとうしさを感ずることが多いのですが、隣接する水田では、手足の生えたおたまじゃくしがパチャパチャと水音をたてて、気持ちをなごませてくれています。

さて調査の方は、前号の「乙貞」発行以来、本格的に行われており、2遺跡4調査区が終了し、4遺跡が調査をはじめました。今号ではこれらの調査成果を中心にお伝えしたいと思います。



☆ 調査終了 ☆

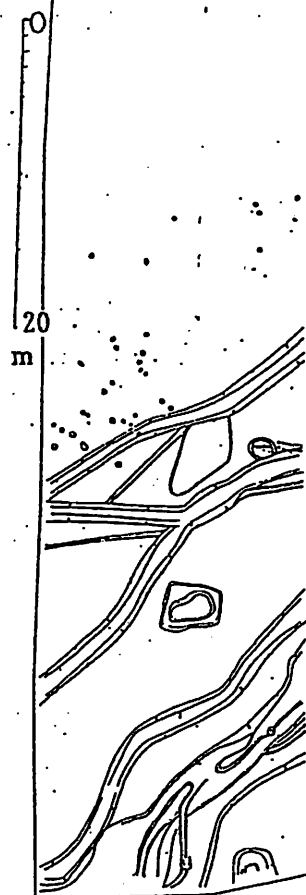
吉身西遺跡の調査 (1)

守山郵便局より西へ150mの水田地で、約2000m²を対象面積に、4月17日～5月19日の期間、現地調査を実施しました。耕土、床土直下の黄色シルト層上面で、遺構の検出を行った結果、2条の溝と柱穴跡が見つかりました。SD-1は南北方向に流れるもので、断面は逆台形を呈し、幅約80cm、深さ70cmを測ります。SD-2は調査地の西南隅でその一部を検出し、断面はU字形で、幅2m以上、深さ1mを測ります。柱穴は建物を想定するには至りませんでした。SD-1、2から高坏や甕が出土しており、古墳時代前期のものと見られます。本調査地は下之郷遺跡と吉身西遺跡の間に位置し、調査結果から遺構密度が低いことが判明しました。

横枕遺跡の調査 (2)

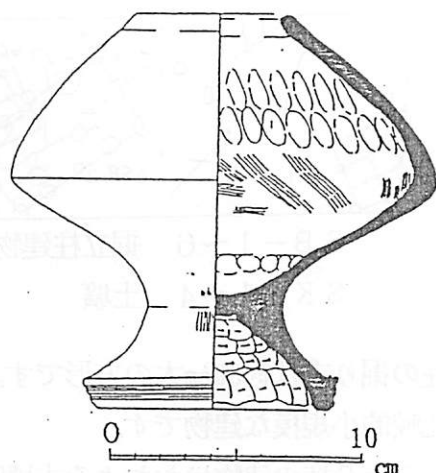
民間の資材置場造成に先立って発掘調査を実施し、約1800m²を対象としました。調査地は横枕遺跡の西端に位置し、ちょうど遺跡をとりまく環濠の通過が予測されるところです。調査は5月12日に開始し、弥生時代中期末の溝、古墳時代前～中期の溝計6条と、時期は限定できませんが無数のピットを検出しました。このうち、弥生時代の溝は幅2.5～3m、深さ約1.8～2mと大規模なもので、発見された位置から環濠と考えられる大溝です。この中からは弥生式土器(別図)が出土しています。古墳時代の溝は幅約1mで、南北に蛇行しながら掘開されています。多数のピットは後世に大きく削平されたと考えられ、建物の柱穴と思われます。おそらく環濠の外側に建てられた倉庫か納屋でしょう。この結果から環濠の規模は東西約420mに達することが判明しました。

横枕遺跡(2) 平面図



横枕遺跡の調査（3）

元町交差点より西方約150mの水田地で、約500m²を対象面積として5月29日～6月14日の間調査を実施しました。本調査地の東側では昨年7月に調査が実施されていて、二ノ畦、横枕遺跡の環濠の一部とみられる大溝が1条見つかった。ほか、方形周溝墓が1基検出されており、今回の調査で環濠集落の外側の様子がつかめるものと思われました。結果は東西方向に流れる旧河道が1条と不定形の土壌が数基検出されるにとどまりました。土壌からは弥生時代中期の甕や高坏が出土し、旧河道からは古墳時代後期の須恵器が出土しています。全体的に遺構密度は希薄で、遺物の出土量も多くはありませんでした。



横枕遺跡(2) 出土土器

横枕遺跡の調査（4）

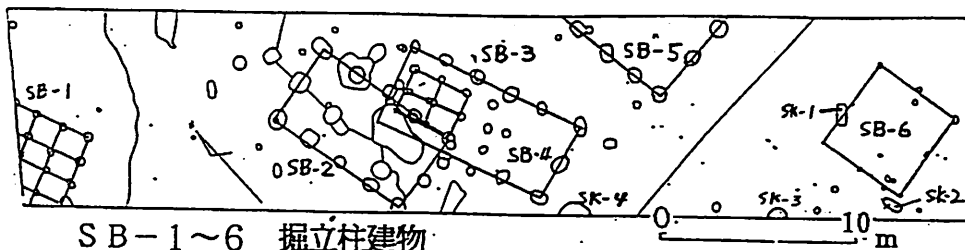
元町交差点より南側約100mの地点で、店舗建設に先立って200m²を対象面積に6月19日から現地調査を実施しました。約1mの造成土と旧耕土を取り除いた下で遺構の検出を行いました。遺構は数基の土壌、柱穴が検出されていて、土壌内より弥生時代中期の土器細片が若干出土しています。

☆ 調 査 中 ☆

吉身西遺跡（A）

調査地は、県立成人病センターと道路を隔てた東側の水田地で、店舗建設に先立つ調査として6月12日から調査を実施しています。約500m²を対象面積とし、耕土約40cm下で掘立柱建物、土壌などの遺構が見つかりました。

掘立柱建物は6棟（SB-1～6）見つかりました。SB-1は3間以上×3間以上の総柱の建物で、柱の掘り方は円形で30cm前後を測ります。この建物の柱穴からは須恵器の坏蓋が出土しています。SB-2は4間×2間の規模で柱の掘り方は約80cm大の方形です。この建物の1穴からは礎板が出土し、他の柱穴内からは土師器の甕（下半部）が出土しました。SB-3、4については現在掘削中ですが、SB-4は5間×2間の規模で、柱の掘り方は約80cm大の方形、SB-3は2間×2間の規模で柱の掘り方が約30cm大の円形です。SB-3は他に比べるとやや小規模です。SB-5は3間×2間以上の大きさで、



SB-1～6 掘立柱建物

SK-1～4 土坑

吉身西遺跡(A) 検出遺構略図

柱の掘り方は約80cm大の方形です。SB-6は2間×2間で約30cmの掘り方と比較的小規模な建物です。

以上6棟の建物はおよそ古墳時代後期と考えられます。また、これらの建物の中でSB-1、2、5、6については同じ方向で、間隔もほぼ一定であり同時期に存続した建物であることが予想されますが、現在も調査継続中であるため今後の調査の進展により明らかになってくると思われます。

川田遺跡の調査 (B)

川田遺跡は川田町集落の南側一帯にひろがる弥生時代～江戸時代にかけての複合遺跡です。工場の増築に伴って3年前から調査を行っていますが、これまでに古墳時代後期の馬形埴輪や人物埴輪が出土した前方後円墳、「幻の村」合村の一部とみられる江戸時代中期の溝などが発見されています。今回の調査はこれらが見つかった地点の近接地約3000m²を対象として実施しており、8月下旬まで予定しています。

遺構は現在までに平安時代末頃～鎌倉時代初頃にかけての建物の一部や溝を検出しています。建物の近くには径10cm程度の土師器小皿23枚が小さな穴の中に重ね置かれていました。これは類例から祭や儀式に関係する土器埋納坑とみられ、建物を建てる前におこなう地鎮祭等の儀式に使用した皿や碗を丁寧に埋めた跡と思われます。建物(家)は現代の村のように近接して建てられたのではなく、20～60m程離れて建てられていたようです。建物と建物の間は畑や水田に利用されていたと考えられ、鋤取り跡とみられる小溝がいくつも見つかっています。

遺物は大量の土師器皿や黒色碗を中心に土釜や陶器甕、灰釉や白磁の皿や碗が出土しています。

下長遺跡の調査 (C)

下長遺跡の調査は、工場用地造成工事に先立って古高町において実施しています。調査地は既存の工業団地北向の水田地で約160m×約330m、面積65000

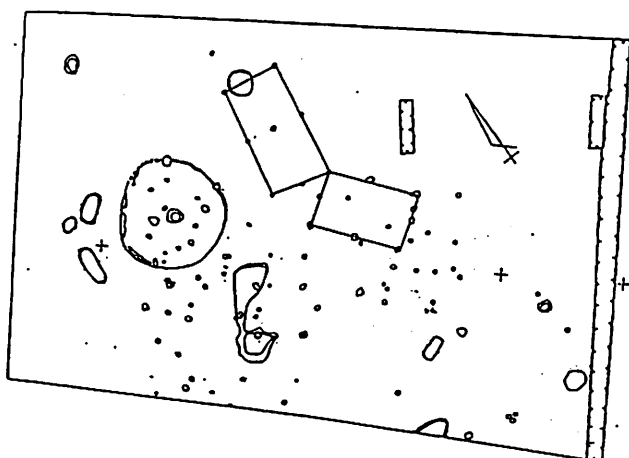
m²のうちその
周縁部の都合
10000m²を調
査する予定で
す。4月下旬
より着手し、
5月中に東隅
2000m²の様子
が判明したの
で報告します。

東隅に設定した3区の調査区(1~3トレン
チ)からは、弥生時代中期と古墳時代前期の遺
構が見つかりました。前者の方は、竪穴住居1
棟と掘立柱建物4棟そして土壇などで、古墳時
代前期の遺構には竪穴住居1棟と溝、土壇、多
数のピットがあります。

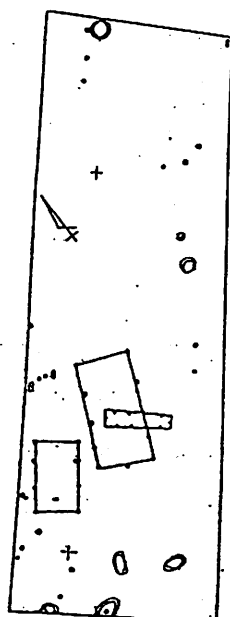
遺構は粘質土層より見つかりますが、その下
層にはかつて河道の氾濫原であったと考えられ
る砂礫土層がみられ、調査地の所々に露われて
いて、起伏の複雑な微地形を想像することがで
きます。このような地理的環境にあって、弥生
時代中期では竪穴住居より掘立柱建物が住居形
態の主流として構築されています。弥
生時代中期、古墳時代前期の各1棟ず
つの竪穴住居は、これから大きく検出
の数を増やすことはなく、そのかわり
に掘立柱建物が今後数多く検出され、
市内の当該時期では希な掘立柱建物に
よって構成される集落の全容が明らか
になっていくと思われます。

なお、3.トレンチの南西辺では旧河道
の端が見つかっていて、良好な遺物が
出土するものと考えられ、次号で続報
をお伝えします。

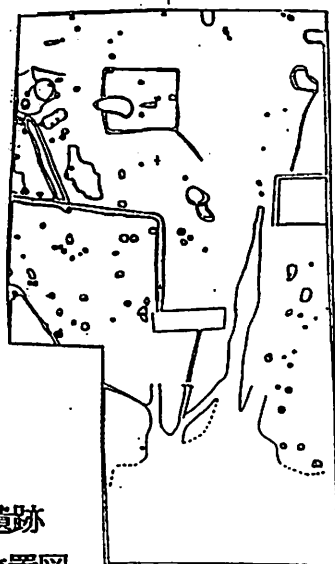
1
ト
レ
ン
チ



2
ト
レ
ン
チ



3
ト
レ
ン
チ



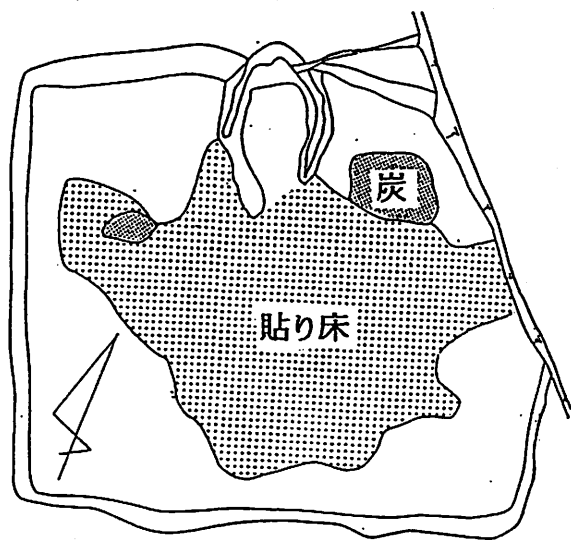
下長遺跡
調査位置図

益須寺遺跡の調査 (D)

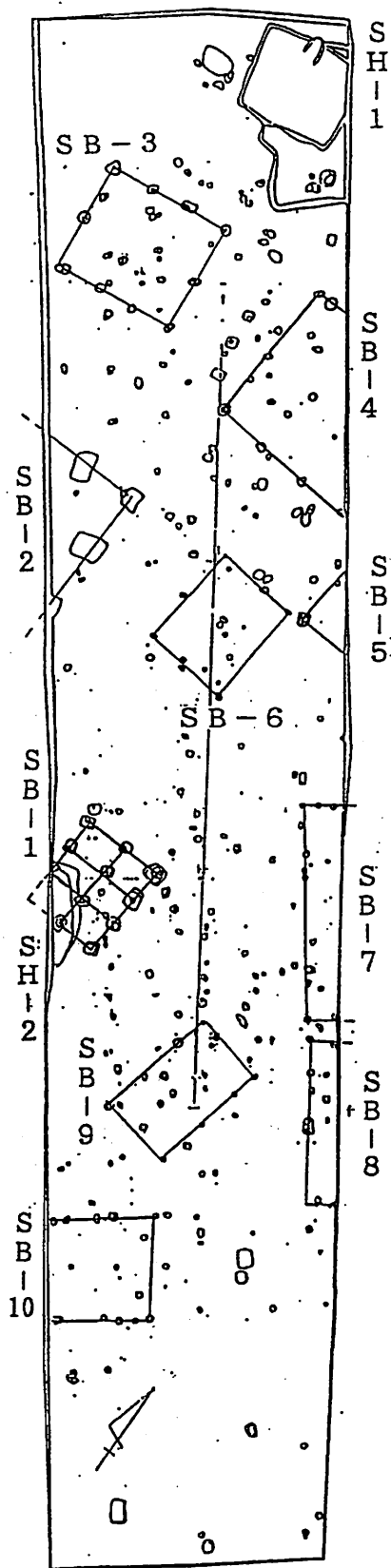
今回の調査地は、昭和62年にスイミングスクール建設に先立って行われたところの隣接地で、吉身町字園田に位置します。調査の原因は宅地造成に伴うもので5月15日より着手し、7月中旬までを予定しています。

先の調査では、古墳時代から平安時代までの建物、井戸などが見つかり、多くの成果が得られていて、この調査成果をもとに今回の調査を進めました。

遺構は竪穴住居2棟 (SH-1、2) 掘立柱建物が推定で10棟 (SB-1~10) 土壌と多数のピットを検出しました。竪穴住居のうちSH-1は調査区の北端で検出し、隅の一部が調査区外へと続きますが、東西4.5m、南北3.8mの規模を測ります。深さは36cm程度で、真中から周囲にかけて広く貼り床が確認でき、また2ヶ所で炭が床面に広がる部分もみられるなど検出状況は良かったものの柱穴は認められませんでした。北辺のほぼ中央では造り付けのカマドが見つかりていま

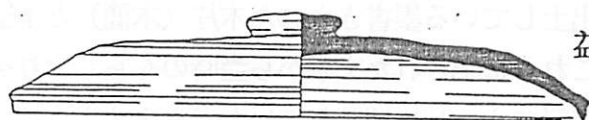


SH-1 平面図



益須寺遺跡 遺構平面図

す。幅約80cm、長さ1.4mの馬蹄形をしており、カマド内やその周辺から長胴甕、土師器皿、須恵器の坏が出土しています。建物内ではさらに西隅で須恵器の坏蓋が上下逆になって出土しました。時期については出土遺物から8世紀初めと想定しており、同期の建物の検出例としては東へ50m程の同じ益須寺遺跡内で1棟見つかっています。(乙貞42号で紹介)掘立柱建物のうちSB-1は2間(3m)×3間(4.4m)の総柱建物で、ほぼ真北に軸を示します。掘方は四角く大きいものは50cm程度で、中の柱穴は20cm前後を測ります。遺物は柱穴内より土師器の坏が出土し、奈良時代前期と思われます。SB-2はやや西へ軸を振る建物ですが、調査区外へ広がっていき、2間以上×2間以上の規模をもちます。SB-3は2間×3間で、SB-2同様西へ軸を振っています。遺物は西側の柱穴より灰釉の耳皿が出土し、平安時代中頃と思われます。



益須寺遺跡 SH-1 出土土器

☆ 開始予定 ☆

酒寺遺跡の調査(E)

土地区画整理事業の実施に先立ち、播磨田町地先で発掘調査を予定しています。調査は3ヶ年計画で行うもので、7月から始まる調査は初年度として約7000㎡の面積を対象に実施します。周辺部の調査から、弥生時代の集落遺跡が検出されるものと思われます。

☆ 友の会だより ☆

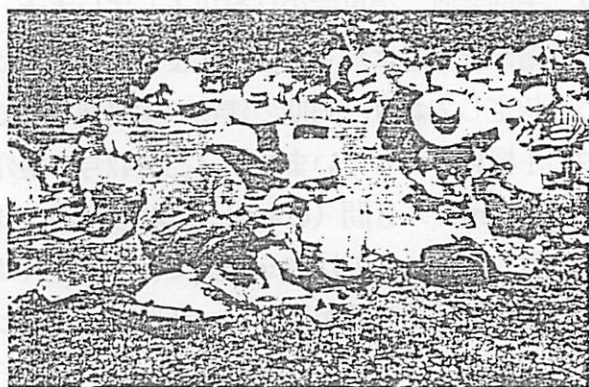
埋文センター友の会では、去る6月17日(土)に、今年度の第1回行事として「日本列島発掘展」を野洲町歴史民俗資料館へ見学に行きました。この催しは昨年京都大丸でも行われ、会からも見学に行きましたが、関西で開かれる最後とあって、前回行かれた人も含めて多数参加されました。当日は館員の方に全国の一級資料の展示品の説明を受け、土曜の午後のひとときを古代のロマンにひたることができました。

友の会ではこのように県内をはじめ、近県への研修や講座を開き、郷土守山を探ろうとする人達が集まった会です。年6～8回程度ですが、興味のある方はご入会下さい。

☆ トピックス ☆

中洲小学校の3、4年生が、野洲川河川敷で土器づくりを体験しました。これは同校のひびきあい活動として、昨年ひきつづいて行われたものです。当

日は生徒、父母ら160名が参加され、最初にセンター職員から生活の中での土器の役割や作り方の説明を受けたあと、さっそく幾つかのグループに分かれて行われました。事前に野洲川で採集された粘土を使って、思い思いの作品に挑戦となりましたが、なかなかうまくいかず、約2時間の作成時間もあっという間におわってしまったようです。



☆ 夏季特別展のご案内 ☆

埋文センターでは今年度第2回目の特別展として下記のとおり開催します。今回の特別展は、野洲郡内で出土している墨書きされた木片（木簡）と土器（墨書土器）を展示します。これらに記された文字から当時のくらしぶりをうかがうことができ、貴重な資料です。ぜひ観覧していただきますようご案内いたします。

記

テーマ 「奈良時代の野洲郡」

期 間 平成元年8月13日(日)～ 8月20日(日)

開館時間 9:00～16:00 期間中無休

開催行事 講演会 8月20日(日)

「木簡のはなし～木簡と奈良時代の生活」

講 師 綾村 宏 (奈良国立文化財研究所資料調査室長)

場 所 市立埋蔵文化財センター2階会議室

時 間 13:00～15:00

※なお、特別展準備のため、8月7日(月)～12日(土)まで臨時休館いたします。

☆ 後 記 ☆

発掘調査は雨になると現地での作業は中止となります。この時期はとくに雨量が多く、降った翌日は排水、また翌日は雨という繰り返しばかりで、うらめしそうに空をながめる日が少なくありません。そのため少しでも調査が円滑に進められるよう、週間天気予報を聞いてがんばっています。(M. H)